

復帰 50 年 第 45 回沖縄平和行進に参加して

関東地本横浜支部 青年部副部長 鶴岡 勇輔

お疲れ様です。この度、自身三度目となる沖縄平和行進に参加して参りました。節目となる今年の平和行進は、感染症と共に行う平和行進でした。例年より歩く距離、日数は少なく、学習会や視察が多い行程でした。参加する度、新たな学び、戦争絶対反対という想いが強くなります。

一日目の古謝厚雄さんの講和では、戦後、沖縄の地で起きた出来事、今ニュースでも報じられている自衛隊基地の増強が何をもたらすのか、を学びました。非核三原則を唱えているのに「沖縄は含まない」と言う核密約の存在や、本島各地に緊急時の使用に備えて、秘密裏に核ミサイルが配備されていた過去、誤発射するもたまたま爆発しなかった事、キューバ危機時、沖縄から世界へ核が発射寸前だった事。

もし発射されてれば報復の対象になる。つまり、沖縄の地が再び戦場になるという事です。それは今行われている自衛隊基地の増強も一緒です。

もし戦争が起きたら、その島々が最前線となり攻撃目標となる。反対されぬ様に金をばら撒く。住民の分断を謀る。辺野古や原発がある地と同じく、卑怯で姑息な手法を使っています。これを沖縄だけの問題とせず、日本の問題として関心を持ち、注視し、そして取り組む事が重要だと学ばせて頂きました。

二日目、初めて旧海軍司令部壕を訪れました。人力で五ヶ月掛けて造られた壕は今も地面を削って造られた跡が残っていました。夜間、玉砕特攻をする前の休憩所では立ったまま仮眠を取っていたそうですが、今から死ぬと解っていてどんな心情で眼を閉じていたのか。

壕内に立て籠っていた人々の一番の望みが「息がしたい」と言う程の熾烈で劣悪な環境の中で、最後の時まで戦っていたのか、、、

今ウクライナの戦争報道が連日ありますが、「〇〇に立て籠って～」だとか「総攻撃を仕掛ける為に建物を破壊して～」だとか、普通に原稿が読み上げられています。そこにも祖国を想い、人を想う人達が毎日亡くなっています。

他人事と無関心では居られません。どれどけ思いを馳せても、その当事者の気持ちはわかりません。ただ、戦争は怖い、絶対に嫌だ、ただの傍観者ではいけないと言う気持ちを再び強く持ちました。

全国結団式でも県民大会でも触れられましたが、沖縄は本土復帰は果たしましたが、未だ日本国憲法の下へは還って来られてません。

一日も早く平和憲法の下へ還って来られる様、自分の国の問題だと一人でも多くの人 생각이、今より大きな声になる事が一番の近道やと私は思います。その日が来るまで、私は諦めない事をここに誓います。

最後に、今年の平和行進を実現する為、携わって下さった全ての皆様、本当にありがとうございました。